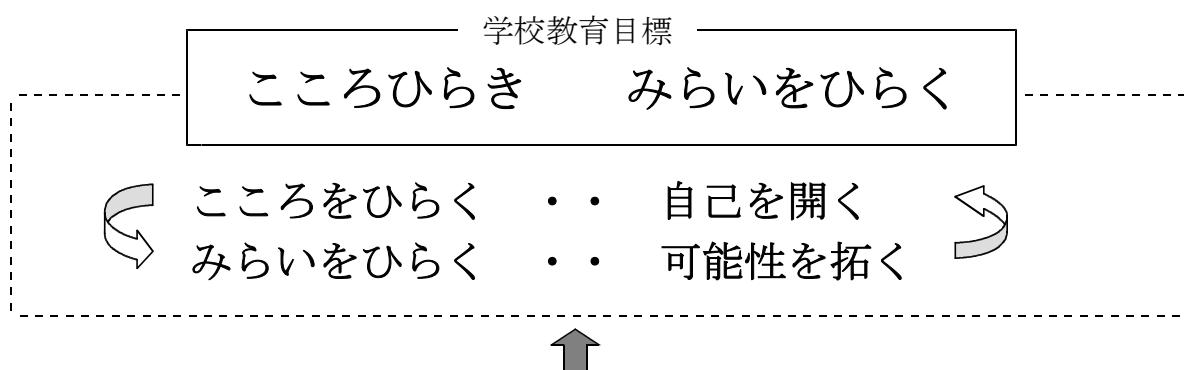


学校教育目標

<地域・学校・児童の実態>

本学区は、大仙市東部の太田地区のさらに東部にある。この周辺は真昼山地・和賀山塊の一部で、大仙市の最高峰小杉山（1, 229m）をはじめ、真木真昼県立自然公園に指定されている。田沢疎水の開通以降、山間から続く田園地帯の農家一戸あたりの平均耕作面積は、県内でも屈指の広さを誇っている。

また、本地域は以前から教育に熱心で、自分たちでお金を出して学校を作ったという自負もあり、地域の子どもは、地域で育てるという機運があった。恵まれた自然の中で育った子どもたちは、純朴で素直である。また、三世代以上の複合型家族構成の家庭が多く、家族に見守られ大事に育てられた子どもたちは穏やかで優しい。その一方で、受動的な面があり、与えられた課題や指示には取り組めるが自ら考えて行動したり、積極的に表現したりすることや、目標に向かって粘り強く活動するという点では力不足が感じられる。



◇「こころをひらき」

社会集団の中で他者と協働しながら生きていくためには、互いの立場や考えを尊重し合う心が必要である。そのためには、まず自分を知るとともに他者に興味をもつこと、自分の思いや考えを伝えたり他者の思いや考えを聞くことが大事である。自己理解を深めそれぞれが自己開示することが互いを認め理解することにつながり、さらに思いやりと信頼に基づく豊かな人間関係を築くことができるものとする。

◇「未来をひらく」

こころをひらくことで築かれた人間関係の中で生活することは、集団の中における自分の居場所を確実に作り、自己有用感を育み、互いの信頼関係を深める。そして、様々な活動への意欲を高め、物事に粘り強く取り組む力となる。それが将来に向かって自分を高め、自信をもって進んでいこうとする大きな原動力になると考える。

今の常識が20年後には非常識になりうる時代といわれる。子どもたちには、この予測困難な将来を切り開き、たくましく生き抜いていくことのできる力を身につけさせたい。